

自己評価報告書

平成23年3月31日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20530824

研究課題名（和文） 戦後日本の理科カリキュラムデザインに関する研究

研究課題名（英文） A Study on Science Curriculum Design in Postwar Japan

研究代表者

柴 一実 (SHIBA KAZUMI)

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：60145175

研究分野：理科教育学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：理科研究中央委員会，理科研究地方委員会，小学生の科学，岡現次郎，V.T.エドミントン，B.M.パーカー

1. 研究計画の概要

小学校理科カリキュラムは大きく分けると、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラムに分類することができる。本研究では顕在的カリキュラムとして小学校理科学習指導要領や理科教科書などを取り上げ、潜在的カリキュラムとしては科学読み物を取り上げ、これらのカリキュラムの成立・発展過程を分析・検討することを目的としている。具体的には以下の研究計画に従って、理科カリキュラムデザインの分析・検討を進めている。

(1) 昭和22年版小学校理科学習指導要領は文部省によって、どのような理念のもとに構想され、具体化されたのか、その成立過程において、GHQ/SCAP/CIEによる関与はどのような形で行われたのかを明確にすること。

(2) 理科研究中央委員会及び地方委員会が昭和22年版小学校理科学習指導要領の改訂や『小学生の科学』の編纂、地方での理科カリキュラム作成などに果たした役割を明示すること。

(3) 占領期において小学校理科教科書が墨塗り教科書から暫定教科書を経て、検定教科書に至るまでの編纂プロセスを明らかにすること。

(4) B.M.パーカーの翻訳書『基礎科学教育叢書 (Basic Science Education Series)』や『銀の鈴文庫』などの広島図書刊行の科学読み物が戦後の理科教育改革に及ぼした影響について明らかにすること。

2. 研究の進捗状況

3年間の研究を通して、新出資料の発掘に努め、次の研究成果を挙げることができてい

る。

(1) 昭和22年版小学校理科学習指導要領において、文部省の岡現次郎がCIE係官であるV.T.エドミントンからもたらされた米国ワシントン州のコース・オブ・スタディを参考にしながら、第1学年から第3学年までの指導内容を作成したという知見が得られた。

(2) 1947（昭和22）年、理科研究中央委員会委員は昭和22年版学習指導要領の改訂に向けて作成した「理解の目標」に基づいて、勤務校である東京第一師範学校男子部附属小学校において新理科カリキュラムを実践し、「理解の目標」の適否を検証したと推測される事実を見出した。

(3) 戦前の『初等科理科一』（1942）、戦後の『初等科理科一・第四学年用』（1946）、『理科の本・第四学年用』（1947）、『第4学年用・小学生の科学』（1948）の教科書比較を通して、文部省の岡現次郎らが『理科の本・第四学年用』の編纂過程において、今日の検定小学校理科教科書のモデルである『小学生の科学』の作成へと繋がる新しい視座を提示したという知見を得た。

(4) 第5・6学年用『小学生の科学』（1949）の原案は理科研究九州・四国・関東地区委員会によって作成されたが、その後、これらの原案は理科研究中央委員会によって採択・修正され、文部省で英文翻訳され、CIEに提出された。CIEはこれらの原案を検閲し、修正を指示していた。一次資料に基づき、理科研究中央委員会による採択基準やCIEによる指示などが明らかになった。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

(理由)

前述のように、「研究の進捗状況」(1)から(4)までの研究成果が得られており、当初の研究目的は順調に達成できている。しかしながら、研究計画の(4)は未だ達成できていない。

4. 今後の研究の推進方策

現在、広島図書発行の B.M.パーカー著作の翻訳書『基礎科学教育叢書 (The Basic Science Education Series)』や『銀の鈴文庫』などの資料収集に努めており、今後、研究計画の(4)の達成に向けて、研究を進展させるつもりである。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

1. 柴一実, 理科研究中央・地方委員会による第5・6学年用『小学生の科学』の内容採択に関する研究, 理科教育学研究, 第51巻, 第3号, (印刷中), 2011, 査読有
2. 柴一実, 戦後理科教育改革関係資料の研究 (VI), 広島大学大学院教育学研究科紀要第一部, 第59号, 89-98, 2010, 査読無
3. 柴一実, 戦後理科教育改革関係資料の研究 (V), 広島大学大学院教育学研究科紀要第一部, 第58号, 89-98, 2009, 査読無 (<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00028578>)
4. 柴一実, 戦後理科教育改革関係資料の研究 (IV), 広島大学大学院教育学研究科紀要第一部, 第57号, 77-86, 2008, 査読無 (<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00025862>)
5. 柴一実, 『学習指導要領・理科編(試案)』(1947)の成立過程に関する研究—小学校第1～3学年の内容構成を中心に—, 理科教育学研究, 第49巻, 第2号, 29-39, 2008, 査読有

[学会発表] (計3件)

1. 柴一実, 戦後における理科教育の革新 (10) —「理解の目標」(1947)の分析を中心に—, 日本理科教育学会第60回全国大会, 2010年8月7日, 山梨大学
2. 柴一実, 戦後における理科教育の革新 (9), 日本理科教育学会第59回全国大会, 2009年8月19日, 宮城教育大学
3. 柴一実, 戦後における理科教育の革新 (8) —多様なカリキュラムデザインと科学的精神の啓培—, 日本理科教育学会第58回全国大会, 2008年9月15日, 福井大学

[その他]

ホームページ等